

粕谷和夫の観察日より。高尾山の麓の小仏川沿いを歩いているとシンジュサンという大型の蛾が山椒の木に止まっていた。隣に蛹の抜け殻があったので、羽化直後のものでした。この蛾の口は退化して摂食せず、幼虫時代に蓄積された栄養だけで活動します。翅の中央の三日月型の紋が良く目立ち、チョウとは違う趣があります。

# 紅葉台



# 新聞

第138号

2024年  
7月13日

発行人：関谷 孝

## ものの数え方について 関邦義

ロシアがウクライナに侵攻(2022年2月24日)してから820日ほどになります。大義も正義もないロシアが勝つようなことがあってはなるまいと、毎日やきもきしながら新聞・テレビを注視しています。それだけではもの足りず、最近ではYouTubeなども見えています。中でも「ウクライナ戦況図」はよく見ます。そこでは、「最近のロシア軍の損失」というのがアップされていて、例えば、兵士1300名、戦車6両、装甲戦闘車22両、砲41門、防空システム1機、ドローン56機、巡航ミサイル1発、と言った具合です。大体、毎日ウクライナの2~3倍の損失が出ているようです。

さて、そこで今回は「ものの数え方」について取り上げてみたいと思います。上に挙げたことから分かるように、日本語ではものを数える際、原則として助数詞や単位が必要になります。「1名」「1両」「1門」「1機」「1発」と言った様々な数え方が存在し、これらは日本語の表現の多様性や豊かさを示すと同時に、外国の方には難しく面倒なものとして敬遠されがちです。のみならず、最近の日本の若者でさえ、「学年が1個上」「駅3つ」などと、何を数えるにも「1個」「1つ」で済ませてしまう傾向があるようです。

そこで頼りになるのが『新明解国語辞典』(三省堂)です。現在8版が出ていますが、4版から「かぞえ方」欄が設けられています。ちなみに「うさぎ」を引いてみますと「一羽・一匹」と出ています。さらに参考になるのが『数え方の辞典』(小学館)です。その中から特に役立つようなものを紹介したいと思います。

(1)動物の数え方…①人間の大きさを基準に動物を数え分けます。人間より大きい動物は「頭」、人間より小さい動物は「匹」、人間と同じくらいの大きさの動物は「頭」でも「匹」でも数えることもできます。②「ウサギ」は習慣的に「羽」で数えることもできます。[例]○オオカミ→匹、頭。



(2)魚介の数え方…①生きている魚介は「匹」で数えます。②釣りの獲物や鮮魚店の商品になると「尾」で数えます。③魚介の形によって様々な数え方があります。細長い魚は「本」、平べったい魚は「枚」で数えることがあります。貝は形に応じて「個」や「枚」で数えます。④イカやタコ、カニ、アワビなどは、形状がふくらんだ形の器に似ているので、その器を表す「杯」で数えることもできます。[例]○エビ→匹、尾、本。○イカ→匹、杯、本。



(3)虫の数え方…①虫は「匹」で数えます。②チョウや貴重な虫は「頭」で数えることがあります。③蛹(さなぎ)は動かないので「匹」よりも「個」で数えます。

(4)植物の数え方…①植物は「本」「株」などで数えます。②樹木は「本」「木」「樹」「株」などで数えます。③鉢植えの植物は「鉢」で数えます。④葉は「枚」「葉(よう)」などで数えます。

紅葉台新聞は、「高尾フモト同盟」のHPに公開されています。高尾の情報や働く人たちが紹介されています。興味を持った方は、覗いてみてください。また、皆様からの情報や投稿もお待ちしています。

⑤花は「輪」「個」などで数えます。⑥種(タネ)は「顆」「粒(つぶ)」「個」、球根は「個」「玉」「球(きゅう)」などで数えます。[例]○ヒマワリの種→顆、粒、個。



## 粕谷和夫の観察日記



今年も長野県栄村にブッポウソウの観察に行ってきました。ここは集落のすぐ裏のブナ林【写真下】に村の自然保護団体がブッポウソウの保護のための巣箱をかけたところ。地元の方の案内でその場所に行ってみると、ブナ林の前の電線にブッポウソウが止まっていました。ブナ林からはアカショウビンの声も聞こえてきました。長野県栄村の観察後、新潟県十日町の松之山温泉でアカショウビンを観察し、さらに松代の星峠の棚田に行きました。棚田では田植えが終わったところが混在していましたが、水が張られた田んぼの景観は見事でした。オオヨシキリ、ホトトギスの声が聞こえる田んぼにアオサギも来ていました。



八王子市高月の田んぼに今年もコチドリがやって来ました。6月4日の毎月の定期カウントに高月の田んぼに行くと、代掻きのために水が張られた田んぼにコチドリが来ていました。バックはアオサギです。コチドリは渡り鳥で、毎年この時期に南の国からはるばるやって来ます。明日は上川の田んぼで今年も田植えを行います。



6月5日、長野県の入笠湿原に野草の花見に行ってきました。この時期入笠湿原は、スズランの開花が売り物になっていますが、希少種のイチョウランの開花に出会い、ラッキーでした。入笠湿原はシカの食害から野草を保護するためにネットが張めぐらされているので、このような希少植物が守られていることを実感しました。



6月3日、鎌倉駅から永福寺跡(ようふくじあと)。瑞泉寺界隈を散策しました。瑞泉寺の庭園は、「えっ?これが日本庭園」と思うものでした。この庭園は無窓疎石の作庭で、岩盤を掘って造ったいわゆる「岩庭」との解説がありました。この庭園の壁になっている岩にイワタバコ(イワタバコ)の可憐な花を見つけたので何か救われた気持ちになりました。

